

## 第6課 霊の結ぶ実は親切 2月6日

安河内アキラ

---

今週の研究：愛と親切は密接な関係にあるので、親切がなければ愛の行為は無意味なものだからです。

忍耐は、いわば絶える愛です。一方、親切はより積極的な愛の表現です。忍耐は行動に表されない場合がしばしばですが、親切は、何を語り、行うかによって、またどのようにそれを語り、行うかによってさらになぜそれを語り、行うかによって表されます。

親切は時間と労力を要求しますが、だれとでもできることです。親切はさまざまな語りで表される「動詞」です。それは、私たちの神がどのような方であるかをあかしする証人です。

---

日曜日：イエスはこえっらの聖句の中で、神が完全であられるように私たちも「完全な者」となるように求めて折られます。どのようにしてでしょうか。敵を愛することによって、迫害する者のために祈ることによって不親切な者に親切にすることによってです。これが、イエスの言われる「完全」ということです。

このような生き方ができるまでに自己を捨てるなら、私たちの教会、家庭は今とは全く違ったところとなるはずで

す。私たちの力とあかしは、陰府の力も対抗できないものとなります。しかしただ一つ、それを妨害することがあります。私たちの罪深く報復的心情にとらえられる心です。それは、しばしばわたしたちを「徴税人」のように振る舞わせます。

---

火曜日：親切はクリスチャンがいつでも表さなければならない特徴です。しかし、クリスチャンは特に次の人たちに対して励ましを語る必要があります。

第一に、私たちは霊的な幼子に親切を表さなければなりません。「むしろ、あなたがたの間でちょうど母がその子どもを育てるように、やさしくふるまった」（テサロニケ第一2：7、口語訳）

第二に、私たちは弱い人たちに親切と励ましを表さなければなりません。「わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません」（ローマ15：1）

第三に、私たちは霊的な病院に看護人のように奉仕をしなければなりません。（テモテ第二2：24、25）

---

木曜日：私たちアドベンチストとして自分の立場を擁護する力強い聖書の証拠を持っています（そうでなければ、私たちのしていることは無意味です）。もちろん、このことも重要ですが、私たちには正しい教え以上のものが必要です。

「もし私たちが神の前にへりくだり、親切で、礼儀正しく、優しく、憐れみ深くあるなら、今は一人しかいないところに、審理を回心する人が100人はいるであろう」（教会へのあかし9巻189ページ）

-----

日曜日の学びでマタイ5：48にある「神さまが完全なお方なのだから」、あなたがたも完全にならなさいという勧めについて書かれています。

この聖句だけを見たら、神さまが完全なのだから、神さまに似るものであるわたしたちも完全にならなければならねばならなし、努力を積み重ねればなれるのだと言っているようにも見えてきます。

しかしそうだとしたらキリストの十字架が不要になってしまいます。聖書全体の思想から考えれば、この聖句だけを強調することは不健全な解釈と言えるでしょう。

このような時には、聖書の文脈を見てみましょう。この部分だけを見ずに、全体を俯瞰すると、その聖句から神さまがお考えが伝わってきます。

マタイ5章は山上の説教の中で、行いなどについて様々に教えているまとめがこの48節です。日曜日の学びの中にあるように、神さまがわたしたち人間が求めることができる完全は親切な行いをする事なのです。

土曜日の学びで「親切は積極的な愛」とありました。これほどの的を得ている言葉はありませんね。なぜもうひと声かけられなかったのだろうか。もう一步積極的になれなかったのだろうかということが多々あります。

このことを反省していると、その原因は自分が大切だからという想いが見えています。こうしたらどう思われるかと考えてしまったり、それ以前にめんどうくさいと行ってしまったり・・・

木曜日の学びから引用しましたが、親切な人がいるところには100名の回心者があとあります。そのようになりたいものです。その前提として「神の前にへりくだり」とあります。親切な人間になるために何をするかですか、どのような努力を積み重ねるかではなく、まずわたしたちの立ち位置を改めること、そればまだできていないからこそ、わたしのまわりにこの約束が成就していないのでしょうかね。